

令和5年度 兵庫県立明石北高等学校 学校自己評価 【結果】

【実践目標の達成状況評価】 4：そう思う 3：どちらかといえばそう思う 2：どちらかといえばそう思わない 1：そう思わない *：わからない
 【評価基準】 4段階評価の平均 A：3.0以上 B：2.8以上 C：2.6以上 D：2.5以下 【評価者（回答数）：46人】

領域等	評価の観点	実践目標（指標）	平均	評価	平均の up/down	
学校運営	開かれた学校づくり	1 ホームページの更新、学年通信の発行等を通じて、保護者や地域に情報を積極的に提供する。	3.3 (3.5)	A (A)	↘	
		2 学校評議員会や授業・行事の公開を通じて、学校評議員の意見等を学校運営の改善に役立てる。	3.0 (3.2)	A (A)	↘	
	生徒指導	3 登下校マナーの向上と事故件数の削減に向け、全教職員の共通理解を基盤とした指導を行う。	3.2 (3.2)	A (A)	→	
		4 適宜個人面談を実施するとともに、カウンセリングマインドの習得に努めることにより、生徒の内面理解を図る。	3.4 (3.3)	A (A)	↗	
		5 いじめ防止基本方針に基づき、計画的にいじめ対策に取り組み、いじめを生まない土壌づくりに努める。	3.2 (3.4)	A (A)	↘	
	進路指導	6 進路指導部と学年の連携を深め、3年間を見据えた計画的な進路HR・進路行事の実施と、その内容の充実を図る。	3.2 (3.4)	A (A)	↘	
		7 個に応じた進路相談を計画的に行い、生徒に自らの「在り方生き方」やキャリア形成について考えさせる。	3.1 (3.3)	A (A)	↘	
	教職員の資質向上	8 学校の諸課題、特にICT機器の活用推進に係る校内研修の実施により、指導力の向上を図る。	3.1 (3.1)	A (A)	→	
		9 学力の三要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等）の育成を目標とした授業改善に取り組む。	3.2 (3.1)	A (A)	↗	
	危機管理体制の整備	10 実情に応じた危機管理マニュアルの見直しを行い、日頃から対応を意識した行動をとる。	2.9 (2.9)	B (B)	→	
		11 不審者対応マニュアルに基づき、危機的事態への対応について研修を行う。	2.8 (2.6)	B (C)	↗	
	選択項目	学校運営全般	12 学校教育目標の実現に向けた各部・各学年の具体的経営方針を定め、その実現に向けて協働する。	3.2 (3.2)	A (A)	→
			13 勤務時間の適正化（「ノー部活デー」の取組を含む）を意識し、自身の業務の在り方とワーク・ライフ・バランスの見直しを行う。	3.0 (2.9)	A (B)	↗
教育課程	共通項目	14 自ら学び自ら考える力の育成	3.0 (3.1)	A (A)	↘	
		15 基礎・基本の定着	3.1 (3.2)	A (A)	↘	
		16 総合的な探究の時間（課題研究）	3.2 (3.2)	A (A)	→	
		17 個に応じた学習指導の徹底	3.0 (3.0)	A (A)	→	
	選択項目	特別活動（学校行事等）	18 生徒会活動やホームルーム活動において、生徒の自主的な態度と運営能力の育成・伸長を図るよう支援する。	3.2 (3.3)	A (A)	↘
19 学校行事（高校生ふるさと貢献活動事業を含む）の精選と行事内容の充実を図る。			2.9 (2.8)	B (B)	↗	
課題教育	共通項目	20 防災避難訓練の実施と危険箇所の点検、救急救命講習の受講により、教職員の意識と技能を高める。	3.2 (3.0)	A (A)	↗	
		21 3年間を見通し、生徒の発達段階や関心に応じた人権LHRを計画的に実施する。	3.0 (3.3)	A (A)	↘	
	選択項目	情報教育	22 生徒がICT機器を適切に利用し情報を活用する能力と、人権尊重を基盤とした情報モラルを育成する。	3.2 (3.2)	A (A)	→
		環境・福祉教育	23 ゴミや省資源等の身近な問題から生徒の環境への関心を高め、環境美化に取り組む姿勢を育てる。	3.1 (2.9)	A (B)	↗
	独自項目	学校の個性化・多様化	24 【自然科学科】各教科・科目でSTEAM教育をベースとした探究的活動（課題研究を含む）の充実を図る。	3.3 (3.3)	A (A)	→
			25 各教科・科目の授業及び特別活動等にSDGsの視点を取り入れ、17の目標と関連付けた実践を行う。	2.9 (3.1)	B (A)	↘
26 SSH事業を軸として「教科横断的な学習」を推進している。			3.0 (-)	A (-)	—	
【総合評価】			3.1 (3.1)	A (A)	→	

令和5年度学校評価 教員・生徒・保護者による評価結果比較表 【評価基準日:令和6年1月31日】

【教職員(行動指標)】		4: 素晴らしい 3: どちらかといえば素晴らしい 2: どちらかといえばそうでもない 1: そうでもない *	わからない						
【生徒・保護者(成果指標)】		4: 素晴らしい 3: どちらかといえば素晴らしい 2: どちらかといえばそうでもない 1: そうでもない *	わからない						
【評価基準】		4段階評価の平均 A: 3.0以上 B: 2.8以上 C: 2.6以上 D: 2.5以下							
領域等	評価の観点	教職員	生徒	保護者					
		平均	評価	平均	評価				
学校運営	開かれた学校づくり	1 ホームページの更新、学年通信の発行等を通じて、保護者や地域に情報を積極的に提供する。	3.3 (3.5)	A (A)	3.3 (3.1)	A (A)	3.4 (3.1)	A (A)	
		2 学校評議員会や授業・行事の公開を通じて、学校評議員の意見等を学校運営の改善に役立てる。	3.0 (3.2)	A (A)					
	生徒指導	3 登下校マナーの向上と事故件数の削減に向け、全教職員の共通理解を基盤とした指導を行う。	3.2 (3.2)	A (A)	3.6 (3.5)	A (A)	3.3 (3.3)	A (A)	
		4 適宜個人面談を実施するとともに、カウンセリングマインドの習得に努めることにより、生徒の内面理解を図る。	3.4 (3.3)	A (A)	3.2 (2.9)	A (B)			
		5 いじめ防止基本方針に基づき、計画的にいじめ対策に取り組み、いじめを生まない土壌づくりに努める。	3.2 (3.4)	A (A)	3.4 (3.1)	A (A)	3.1 (3.0)	A (A)	
	進路指導	6 進路指導部と学年の連携を深め、3年間を見据えた計画的な進路HR・進路行事の実施と、その内容の充実を努める。	3.2 (3.4)	A (A)	3.3 (3.1)	A (A)	3.2 (3.0)	A (A)	
		7 個に応じた進路相談を計画的に行い、生徒に自らの「在り方生き方」やキャリア形成について考えさせる。	3.1 (3.3)	A (A)					
	教職員の資質向上	8 学校の諸課題、特にICT機器の活用推進に係る校内研修の実施により、指導力の向上を図る。	3.1 (3.1)	A (A)					
		9 学力の三要素(知識・技能、思考力・判断力・表現力等)、学びに向かう力・人間性等)の育成を目標とした授業改善に取り組む。	3.2 (3.1)	A (A)					
	危機管理体制の整備	10 実情に応じた危機管理マニュアルの見直しを行い、日頃から対応を意識した行動をとる。	2.9 (2.9)	B (B)					
		11 不審者対応マニュアルに基づき、危機的事態への対応について研修を行う。	2.8 (2.6)	B (C)					
選択項目 学校運営全般	12 学校教育目標の実現に向けた各部・各学年の具体的な経営方針を定め、その実現に向けて協働する。	3.2 (3.2)	A (A)			3.1 (2.9)	A (B)		
	13 勤務時間の適正化(「ノー残業デー」の取組を含む)を意識し、自身の業務の在り方とワーク・ライフ・バランスの見直しを行う。	3.0 (2.9)	A (B)	3.3 (2.9)	A (B)	3.3 (3.0)	A (A)		
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	14 令和4年度より実施されている新学習指導要領を念頭に、生徒の興味・関心に応えられる特色ある教育課程を編成(検討)する。	3.0 (3.1)	A (A)	3.1 (2.9)	A (B)	3.1 (2.9)	A (B)	
		15 「学習のための基本的スキル」の育成と、主体的・対話的で深い学びを実現するための教授方法を創意工夫する。	3.1 (3.2)	A (A)			3.3 (3.0)	A (A)	
	16 総合的な学習(探究)の時間(課題研究)	3.2 (3.2)	A (A)	3.2 (2.8)	A (B)				
	17 個に応じた学習指導の徹底	3.0 (3.0)	A (A)	3.1 (2.7)	A (C)	3.0 (2.7)	A (C)		
	選択項目 特別活動(学校行事等)	18 生徒会活動やホームルーム活動において、生徒の自主的な態度と運営能力の育成・伸長を図るよう支援する。	3.2 (3.3)	A (A)	3.4 (3.3)	A (A)	3.4 (3.0)	A (A)	
19 学校行事(高校生ふるさと貢献活動事業を含む)の精選と行事内容の充実を図る。		2.9 (2.8)	B (B)						
課題教育	共通項目 防災教育・安全教育	20 防災避難訓練の実施と危険箇所の点検、救命救命講習の受講により、教職員の意識と技能を高める。	3.2 (3.0)	A (A)	3.4 (3.1)	A (A)			
		21 3年間を見通し、生徒の発達段階や関心に応じた人権LHRを計画的に実施する。	3.0 (3.3)	A (A)	3.5 (3.4)	A (A)	3.4 (3.2)	A (A)	
	選択項目 環境・福祉教育	22 生徒がICT機器を適切に利用し情報を活用する能力と、人権尊重を基盤とした情報モラルを育成する。	3.2 (3.2)	A (A)	3.7 (3.6)	A (A)	3.2 (2.9)	A (B)	
		23 ゴミや省資源等の身近な問題から生徒の環境への関心を高め、環境美化に取り組む姿勢を育てる。	3.1 (2.9)	A (B)	3.4 (3.4)	A (A)	3.2 (3.0)	A (A)	
独自項目 学校の個性化と多様化	24 [自然科学科]各教科・科目でSTEAM教育をベースとした探究的活動(課題研究を含む)の充実を図る。	3.3 (3.3)	A (A)	3.7 (3.4)	A (A)				
	25 各教科・科目の授業及び特別活動等にSDGsの視点を取り入れ、17の目標と関連付けた実践を行う。	2.9 (3.1)	B (A)	3.3 (3.1)	A (A)	3.5 (3.4)	A (A)		
	26 SSH事業を軸として「教科横断的な学習」を推進している。	3.0 (-)	A (-)	3.2 (-)	A (-)	3.1 (-)	A (-)		
【総合評価】		3.1 (3.1)	A (A)	3.4 (3.1)	A (A)	3.2 (3.0)	A (A)		